

●目次

審判員の心得	P1
四人制審判の取り決め事項	P2
無走者 外野への打球の際の各審判の責任	P4
(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合	P5
(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合	P5
(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合	P6
(d) 内野ゴロによって一塁でプレイが生じるときの球審の動き	P6
走者一塁 外野への打球の際の各審判の責任	P7
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合	P8
(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合	P8
走者二塁 外野への打球の際の各審判の責任	P9
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合	P10
(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合	P10
走者三塁 外野への打球の際の各審判の責任	P11
(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合	P12
(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合	P12
(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合	P13
走者一・二塁	
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合	P14
(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合	P14
走者一・三塁 (二塁塁審が内野に位置した場合)	
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合	P15
(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合	P15
走者一・三塁 (二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)	
(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合	P16
(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合	P16
走者一・三塁 (二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)	
(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合	P17
(d) 本塁後方にファウルフライが飛んで球審がその打球を追った場合	P17
走者二・三塁 (二塁塁審が内側に位置した場合)	
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合	P18
(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合	P18
走者二・三塁 (二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)	
(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合	P19
(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合	P19
走者二・三塁	
(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合	P20
走者満塁 (二塁塁審が内側に位置した場合)	
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合	P21
(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合	P21
走者満塁 (二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)	
(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合	P22
(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合	P22
走者満塁 (二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)	
(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合	P23
内野へのラインドライブ	
二塁塁審が中にいる場合 / 二塁塁審が外にいる場合	P24

四人制審判メカニクス

(2022年版)

●審判員の心得

1. 審判員として

- ①試合中は、審判員に徹する事。…選手を指導する言動は厳禁。(プレイに公平であること)
- ②二日酔いや、体調が悪い時には担当しない。(正確なジャッジは出来ない)
- ③試合中は疲れていても爽やかな姿勢をしよう。(周囲は審判員を見ている)
- ④常にきびきびとした行動をとる。
- ⑤常に「野球規則」を学習する。(野球の本質：フェアであるべき野球を考えること)
- ⑥プロ野球の真似はしない。アマチュア野球の基本に忠実に。
- ⑦試合(人のプレイ)を裁くのため、自分がきちんと自覚と責任を持つ。

2. 判定のキーポイント

- ①判定するときは止まって見る。
- ②距離を一步近づくより、一步動いてよい角度をとる。
- ③ボールに正体し常に自分の正面にボールを置く。
- ④判定を急がない。
- ⑤どこでプレイが起こるかを予測しプレイを待ち受ける。
- ⑥判定は予測や決めつけをせず、見たままを判定する。

本資料は、試合で実際に審判をする方が、メカニクスや審判の取り決め事項などをご理解頂き、正確な判定をして頂けるよう、各団体様の資料等を参考に作成いたしました。

なお、本メカニクスには当連盟特有の取り決め内容が含まれています。

本資料をご利用になる方は、その点をご留意の上ご使用ください。

【参考文献】

「審判メカニクスハンドブック第6版」(2022年2月日本野球協議会オペレーション委員会審判部会)

調布市少年野球連盟審判部
2022年6月

●四人制審判の取り決め事項

1. ポジショニング

- ①無走者・走者三塁のとき……二塁塁審は、二塁ベースの後方に位置する。
- ②走者一塁、二塁、一・二塁、一・三塁、二・三塁、満塁のとき……二塁塁審は、一・二塁間の内側に位置する。（内野手が前進守備の場合は外側に位置してもよい）
- ③一塁塁審、三塁塁審はいずれの場合もファウルラインの外側に立つ。

2. 外野への打球の責任範囲

外野への打球を追う審判は、角度をとりながら落下点に近づき、必ず止まって判定する。

A. 二塁塁審が外側に位置した場合

- ①左翼手より向かって左側の打球……三塁塁審
- ②左翼手正面の前後から右翼手正面の前後までの打球……二塁塁審
- ③右翼手より向かって右側の打球……一塁塁審

B. 二塁塁審が内側に位置した場合……外野への打球は追わない。

- ①中堅手より向かって左側の打球……三塁塁審
- ②中堅手正面の前後より向かって右側の打球……一塁塁審

C. 外野への打球を追った塁審は打球を判定した後その場に留まり、担当していた塁は他の審判に任せる。

カバーに行った審判は、その塁の審判が戻るまで、その塁を離れてはいけない。
（引き継ぎをきちんとする）

3. 球審の動き

- ①無走者の場合は一塁または三塁をカバーする。
- ②走者一塁の場合は、三塁をカバーする。
- ③走者が二塁または三塁のスコアリングポジションにいるときは、本塁に留まる。

4. 塁審が打球を追うケース

- ① 自分の責任範囲に飛球（ライナー）が打たれたら、必ずゴーアウトして、止まって判定する。
- ② トラブルボールになると判断したときは、いい角度をとりながらできるだけ近づいて、止まって判定する。
- ③ ライナー性の打球で、明らかにヒットになると判断したときは、打球の行方を確認し、その後のプレイに備える。

※トラブルボール

- イ. 右翼線または左翼線寄りの飛球（ライナー）
- ロ. 外野手が前進する地面すれすれの飛球（ライナー）
- ハ. 外野手が背走するフェンス際の飛球（ライナー）
- ニ. 野手が集まる飛球（ライナー）

●目次に戻る

5、その他

- ① ボールに正対しながら、走者とベースも自分の前面に置けるポジショニングをとる。(リミングの動きなど)
- ② 触塁は首を振ってチラッと確認する。動きながらで構わない。
- ③ ある塁をカバーに行く場合、打球を見ながら、他の審判員（自分の背後にいる）が、自分の担当していた塁をカバーする準備ができていないか、首を振ってチラッと確認する。

【例1】無走者のとき、二塁塁審が打球を追った場合

- ・三塁塁審は、球審が三塁をカバーする準備をしているかを、二塁に向かう途中でチラッと確認する。
- ・球審は、一塁塁審が本塁をカバーする準備をしているかを、三塁に向かう途中でチラッと確認する。

【例2】走者二塁のとき、三塁塁審が打球を追った場合

- ・二塁塁審は、二塁走者の三塁触塁を確認した後、一塁塁審が二塁をカバーする準備をしているかを、チラッと確認する。

注

“プレイに備える”

打球および送球の行方を確認し、走者の行動を観察しながら塁上でのプレイに備えること。

“プレイが一段落するまで”

打球が処理され、野手から内野方向に返球されるまでをいう。

“すべてのプレイ”

触塁、タッグアップ、ランダウンプレイなどをいう。

“リミング”

一塁塁審が、一・二塁を結ぶラインの外側から一・二塁のプレイに備える動きをいう（走者二塁、走者三塁、走者一・二塁、走者一・三塁、走者二・三塁、満塁で、中堅手から左側の外野飛球を三塁塁審 または二塁塁審が追った場合にボール・ベース・自分の位置をキープする。）

“ステップアップ・ターン”

まず打球方向の足を前方に一步踏み出し（ステップ・アップ）、その足を基点に反対の足を打球や打球を処理する野手の方向に向けて（ターン）、自身をボールに正対させる（フェイス・ザ・ボール）動作である。

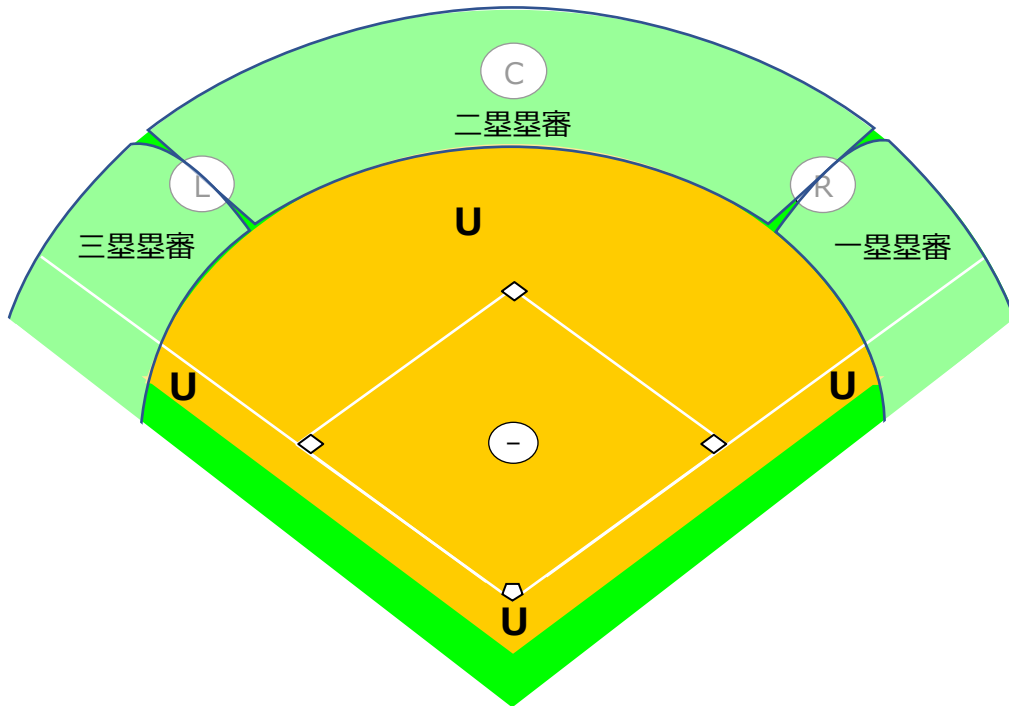
“ピボット・ターン”

片足を基軸にして、体を回転させることであり、体の向きをスムーズに反転させながら、ボールや走者の触塁を確認する方法である。

“ポストピッチステップ”

塁審が投球後、捕手から走者への牽制球（ピック・オフ・プレイ）に備えるために、ステップを行い角度をつけて牽制球のプレイを判定する。

無走者

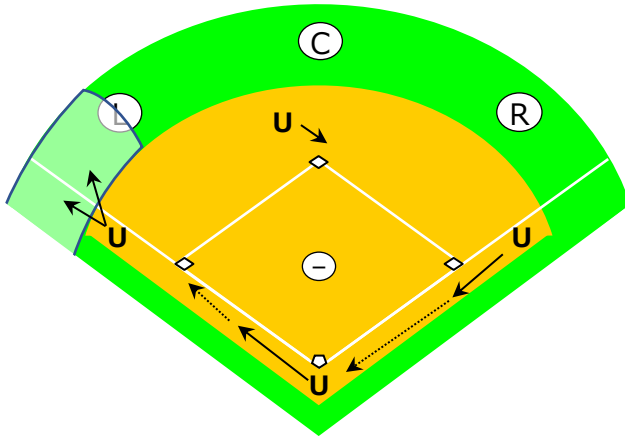


外野への打球の際の各審判の責任

- (1) 二塁塁審は、二塁ベースの後方（芝の部分）に位置し、その位置は三塁側とする。
- (2) 二塁塁審は、左翼手定位置（正面または背後の打球を含む）から、右翼手定位置（正面または背後の打球を含む）までの打球に責任を持つ。
- (3) 一塁塁審は、右翼手定位置から右翼線寄りの打球に責任を持つ。
- (4) 三塁塁審は、左翼手定位置から左翼線寄りの打球に責任を持つ。

無走者 (a) (b)

(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合



P L

三塁での“プレイに備える”。

1 B

打者走者の一塁触塁を確認し、
打者走者が二塁に到達するまでは、
その場に留まる。

打者走者が三塁に向かい、
球審が三塁へ移動したら本塁での
“プレイに備える”。

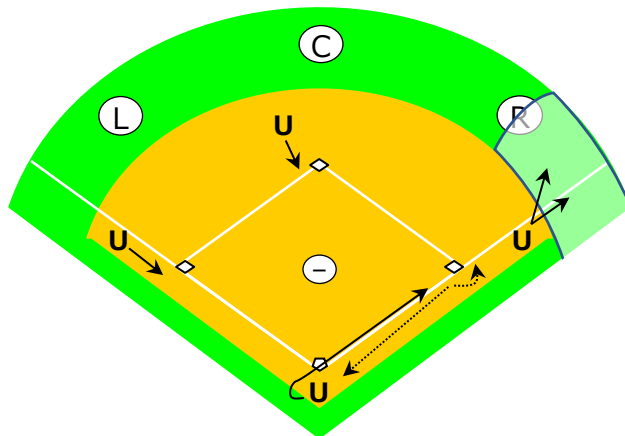
2 B

二塁での“プレイに備える”。

3 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、
“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合



P L

打者走者の一塁触塁を確認し、
一塁および本塁での“プレイに備える”。
打者走者が三塁に向かったら本塁に戻る。

1 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、
“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

2 B

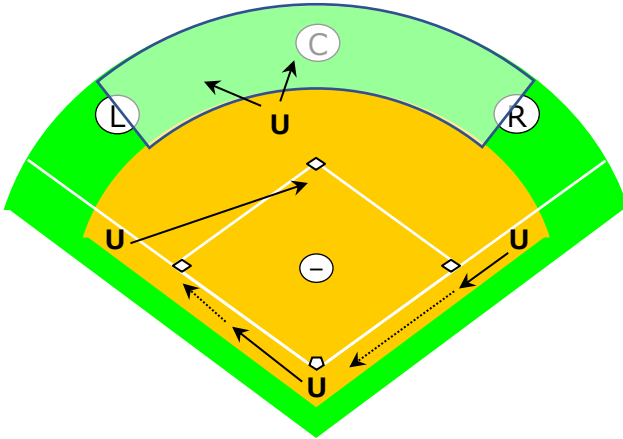
二塁での“プレイに備える”。

3 B

三塁での“プレイに備える”。

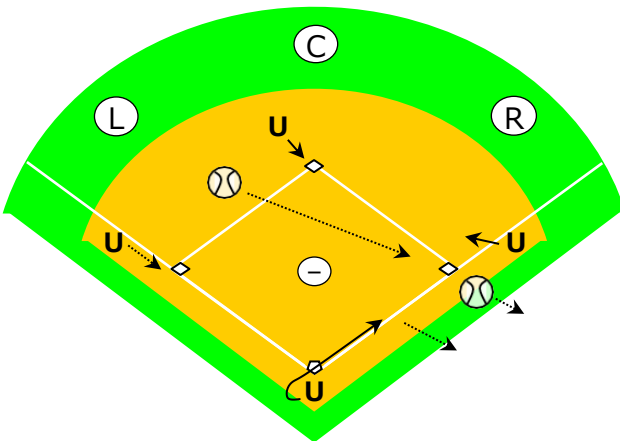
無走者 (c) (d)

(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合



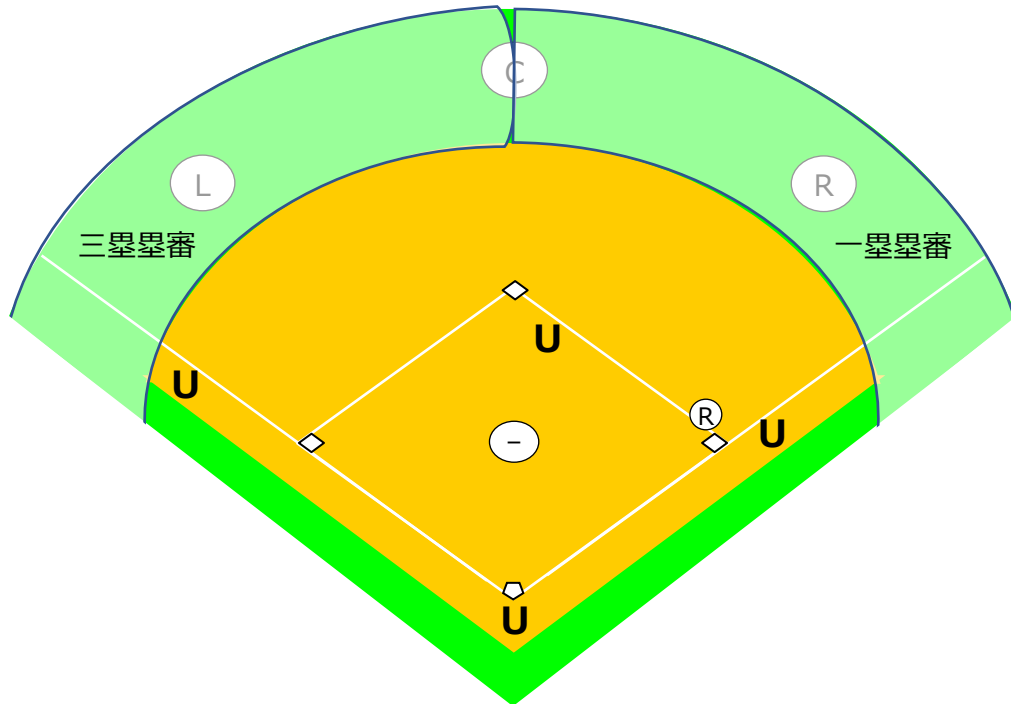
- P L
三塁での“プレイに備える”。
- 1 B
打者走者の一塁触塁を確認し、打者走者が二塁に到達するまでは、その場に留まる。
打者走者が三塁に向かい、球審が三塁へ移動したら本塁での“プレイに備える”。
- 2 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。
- 3 B
二塁ベース内野内に移動し、二塁での“プレイに備える”。

(d) 内野ゴロによって一塁でプレイが生じるときの球審の動き



- P L
打者走者の後方を4 5フィート地点までついていき、その後の一塁での“プレイに備える”。
- 捕球の際、一塁手の足がベースから離れたり、スワイプタッグ（追いタッグ）、ダッグアウト方向への悪送球、打者走者の守備妨害の確認など1Bを補佐するため45フィートラインまで走る
- 1 B
一塁での“プレイに備える”。
- 2 B
二塁での“プレイに備える”。
- 3 B
三塁での“プレイに備える”。

走者一塁

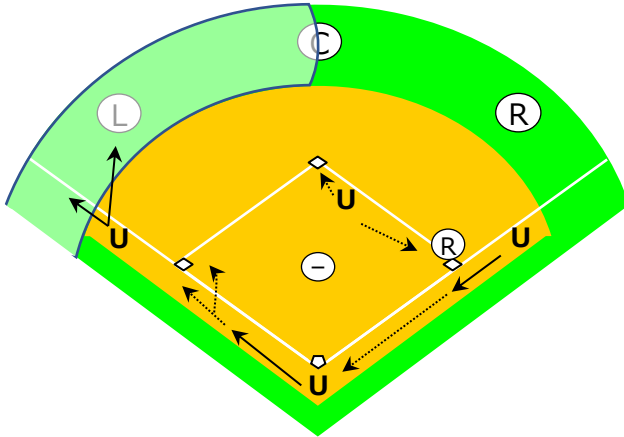


外野への打球の際の各審判の責任

- (1) 二塁塁審は、内野内に位置し、その位置は二塁ベースの一塁寄り。
内野内に位置したら外野への飛球（ライナー）に対する責任は持たない。
- (2) 一塁塁審は、中堅手定位置（正面または背後の打球を含む）から右翼線寄りの打球に責任を持つ。
- (3) 三塁塁審は、中堅手定位置から左翼線寄りの打球に責任を持つ。

走者一塁 (a) (b)

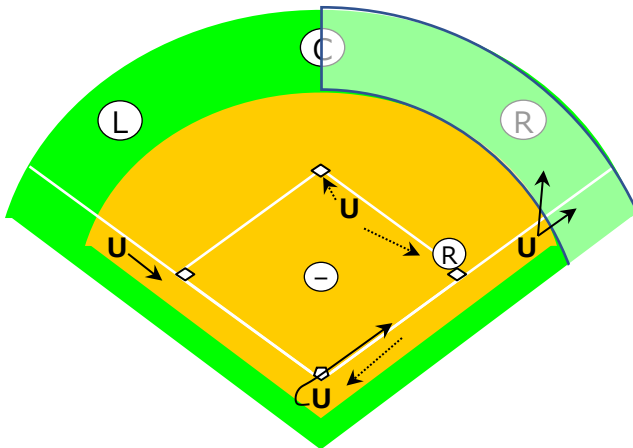
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合



- P L
三塁での“プレイに備える”。
- 1 B
一塁走者のタッグアップおよび打者走者の一塁触塁を確認し、一塁での“プレイに備える”。一塁走者が三塁に向かい、球審が三塁へ移動したら本塁へ向かう。
- 2 B
一・二塁間に移動して、一塁走者の二塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。
- 3 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

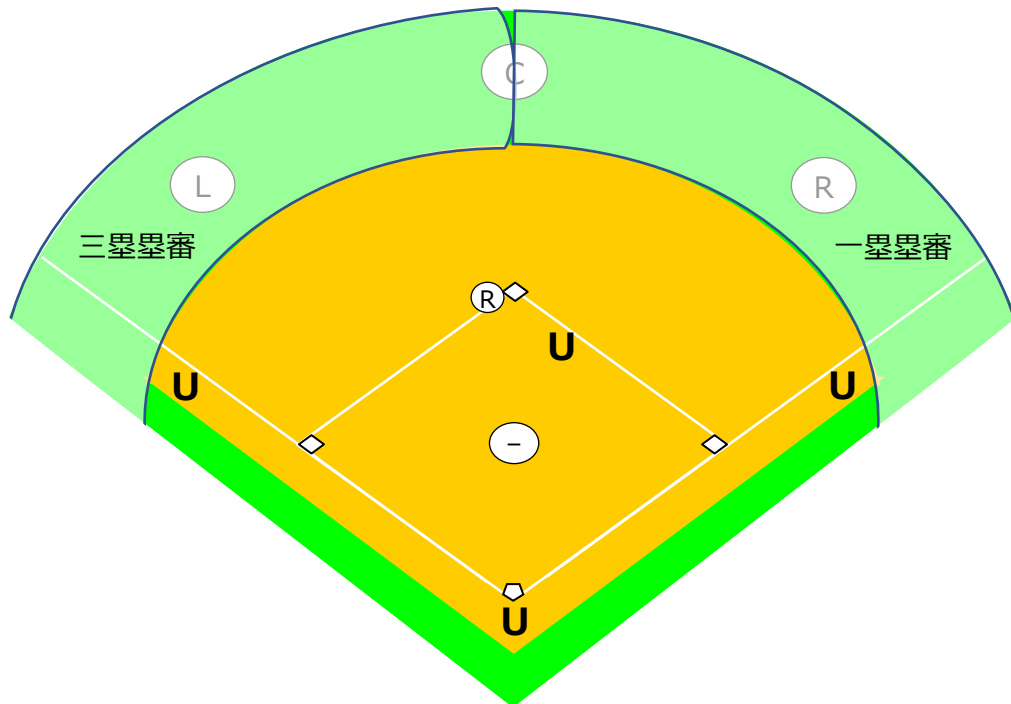
「付記」 2アウトの場合、球審が本塁での“プレイに備える”とすることができる。塁審に予め伝えておく。その場合、一塁塁審の動きは、内野内に移動またはリミングによって、打者走者の一塁触塁を確認し、打者走者の一・二塁での“プレイに備える”と変わる。また、二塁塁審の動きは、二・三塁間に移動して一塁走者の二塁触塁を確認し、一塁走者の二・三塁および打者走者の三塁での“プレイに備える”と変わる。

(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合



- P L
一塁走者のタッグアップおよび打者走者の一塁触塁を確認し、プレイの状況を見ながら本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる
- 2 B
一・二塁間に移動して、一塁走者の二塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”（一塁走者および打者走者の一塁への帰塁プレイを含む）。
- 3 B
三塁での“プレイに備える”

走者二塁

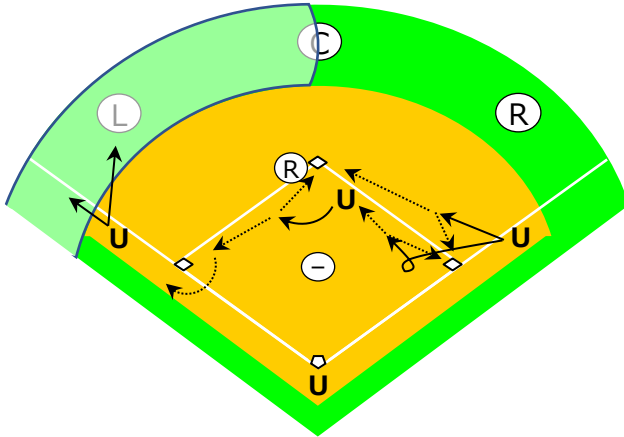


外野への打球の際の各審判の責任

- (1) 二塁塁審は、内野内に位置し、その位置は二塁ベースの一塁寄り。
内野に位置した場合、外野への飛球（ライナー）に対する責任は持たない。
- (2) 一塁塁審は、中堅手定位置（正面または背後の打球を含む）から右翼線寄りの打球に責任を持つ。
- (3) 三塁塁審は、中堅手定位置から左翼線寄りの打球に責任を持つ。
- (4) 外野への打球の際の各審判の責任は走者一塁の場合と同じである。

走者二塁 (a) (b)

(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、打者走者の一塁触塁を確認し、打者走者の一・二塁での“プレイに備える”。

2 B

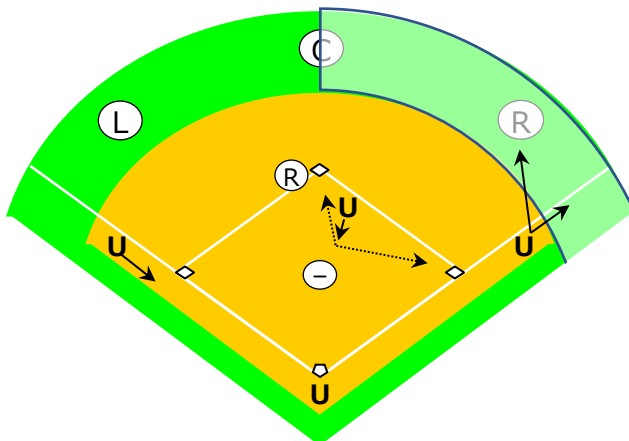
二・三塁間寄りのマウンド方向に移動し、二塁走者のタッグアップまたは三塁触塁を確認し、二塁走者の二・三塁および打者走者の三塁での“プレイに備える”。

3 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」二塁走者が三塁へ向かった場合、二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

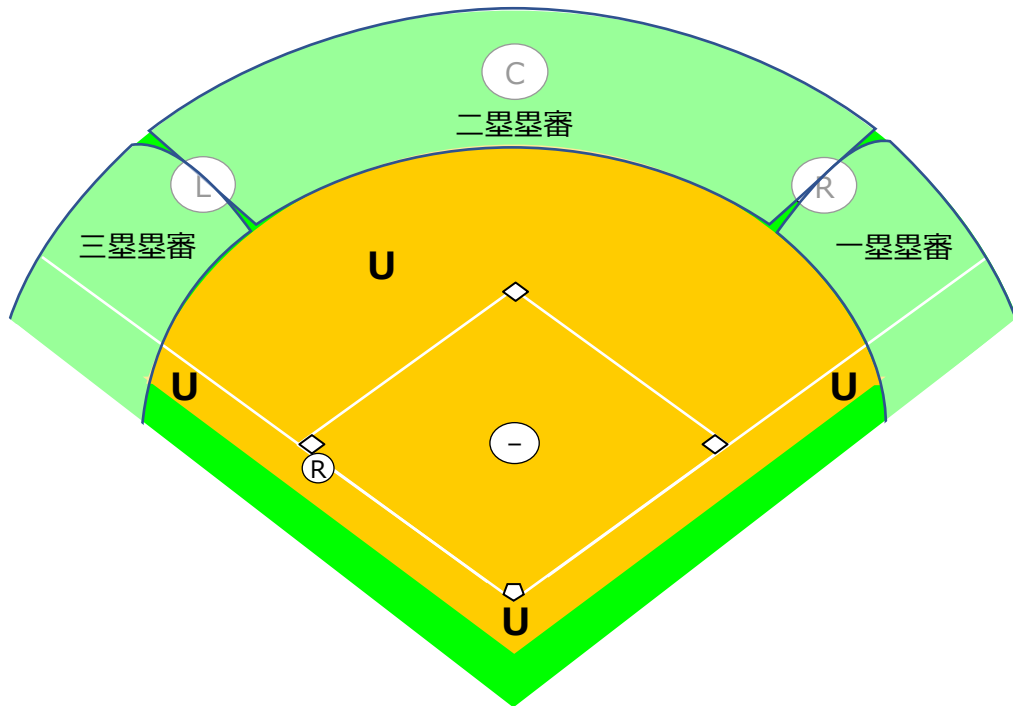
2 B

視野を広げながら（ステップバック）二塁走者のタッグアップと打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

3 B

三塁での“プレイに備える”。

走者三塁

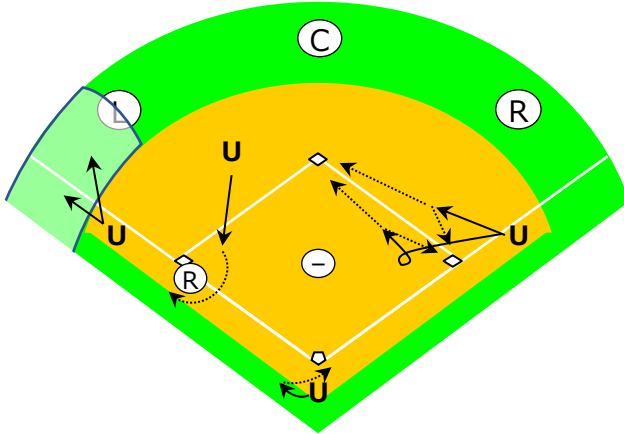


外野への打球の際の各審判の責任

- (1) 二塁塁審は、二塁ベースの後方、遊撃手側の後方に立つ。
2アウトのときは、無走者のときと同じ位置に立つことができる。
- (2) 二塁塁審は、左翼手定位置（正面または背後の打球を含む）から、右翼手定位置（正面または背後の打球を含む）までの打球に責任を持つが、左翼手よりに位置したときは左翼線寄りの打球以外の左翼手への打球にも責任を持つ。
- (3) 一塁塁審は、右翼手定位置から右翼線寄りの打球に責任を持つ。
- (4) 三塁塁審は、左翼手定位置から左翼線寄りの打球に責任を持つ。
- (5) 原則として外野への打球の際の各審判の責任は、無走者の場合と同じである。

走者三塁 (a) (b)

(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合



P L

三塁走者のタッグアップを確認し、本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、打者走者の一塁触塁を確認し、打者走者の一・二塁での“プレイに備える”。

2 B

三塁方向の内野内に移動し、三塁での“プレイに備える”。

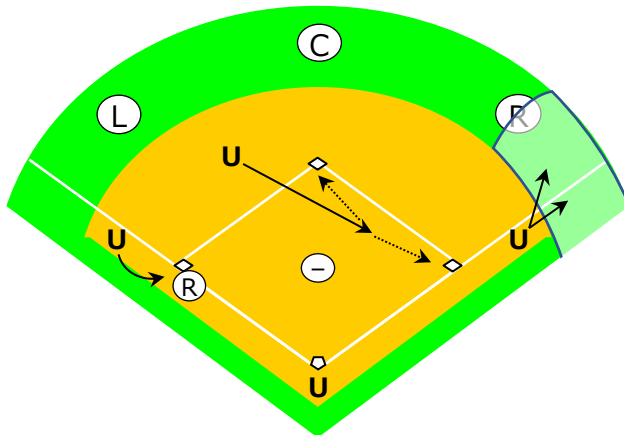
3 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」 2アウトの場合、二塁塁審は無走者のときと同じポジションをとることができる。

その場合は、二塁塁審の責任および動きは、打者走者の二・三塁でのプレイに備えるというふうになる。また、球審は走者がスコアリングポジションにいるので本塁に留まり、一塁塁審は打者走者の一塁でのプレイだけに備えることになる。

(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

2 B

一塁方向の内野内に移動して、打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイ”に備える。

3 B

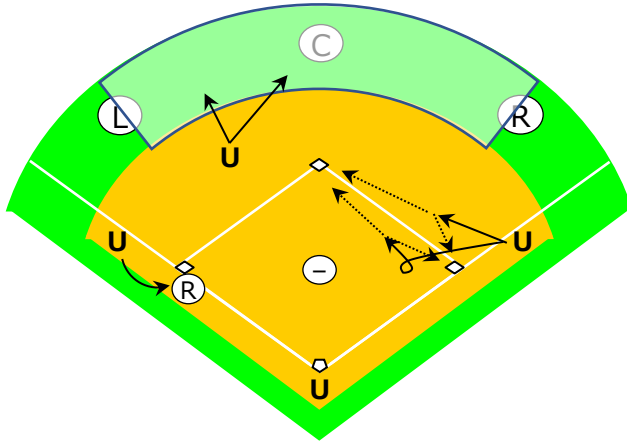
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

「付記」 2アウトの場合、二塁塁審は無走者のときと同じポジションをとることができる。

しかし、すべての審判員の責任および動きは変わらない。

走者三塁 (c)

(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合

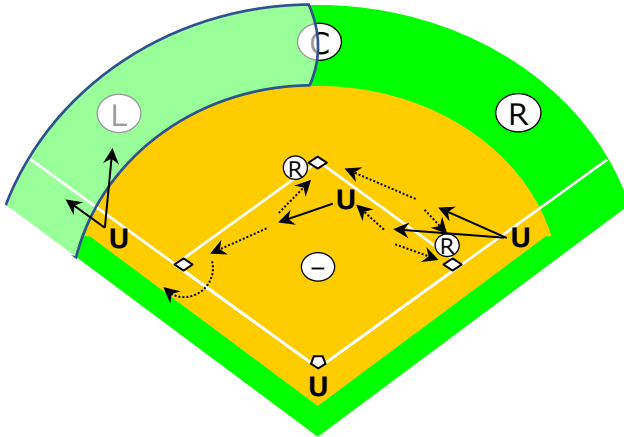


- P L
本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
内野内に移動または“リミング”によって、
打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での
“プレイに備える”。
- 2 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、
“プレイが一段落するまで”その場に留まる。
- 3 B
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での
“プレイに備える”。

「付記」2アウトの場合、二塁塁審は無走者のときと同じポジションをとることができる。
その場合は、三塁塁審の責任および動きは、打者走者の二・三塁でのプレイに備えるという動きにすることもできる。そのとき、球審は走者がスコアリングポジションにいるので本塁に留まり、一塁塁審は打者走者の一塁でのプレイだけに責任を持つことになる。
その際はクルーで予め、確認しておく。

走者一・二塁 (a) (b)

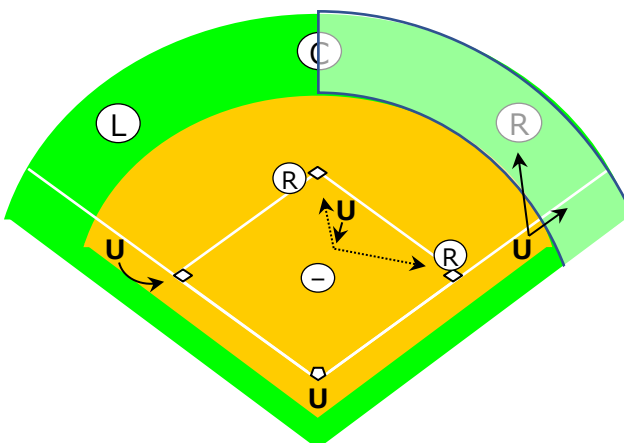
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合



- P L
本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
内野内に移動または“リミング”によって、一塁走者のタグアップまたは二塁触塁および打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。
- 2 B
二・三塁間寄りのマウンド方向に移動し、二塁走者のタグアップまたは三塁触塁を確認し、二・三塁での“プレイに備える”。
- 3 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」二塁塁審が三塁へ向かった場合、二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合

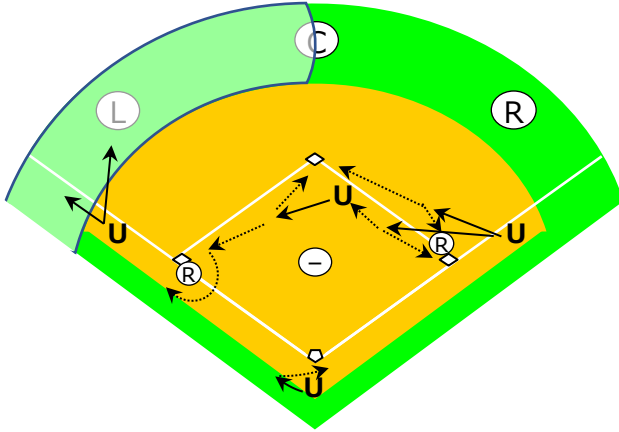


- P L
本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。
- 2 B
視野を広げながら（ステップバック）、一塁走者および二塁走者のタグアップ、一塁走者の二塁触塁および打者走者の一塁触塁を確認し、すべての走者の一・二塁での“プレイに備える”。
- 3 B
三塁での“プレイに備える”。

走者一・三塁 (a) (b)

(二塁塁審が内野に位置した場合)

(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合



P L

三塁走者のタッグアップを確認し、本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、一塁走者のタッグアップおよび二塁触塁、打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

2 B

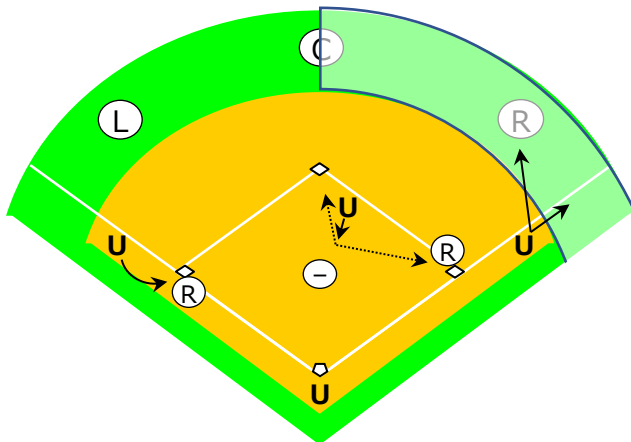
二・三塁間に移動して、一塁走者の二塁触塁を確認し、二・三塁での“プレイに備える”。

3 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」三塁走者が三塁に戻った場合および一塁走者が三塁に向かった場合、二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

2 B

視野を広げながら（ステップバック）、一塁走者のタッグアップおよび二塁触塁を確認し、一塁走者および打者走者の一・二塁での“プレイに備える”。

3 B

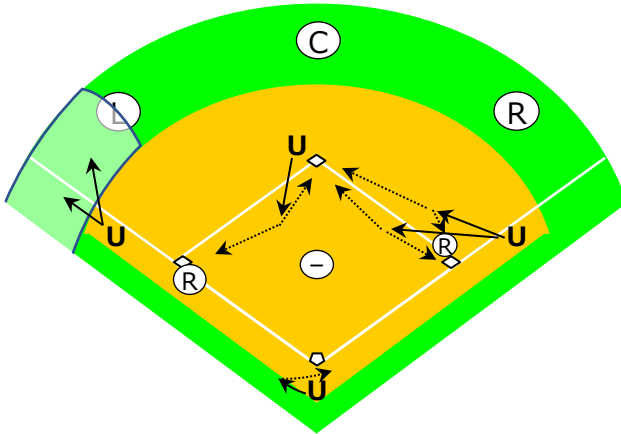
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

走者一・三塁 (a) (b)

(二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)

※二塁塁審は一塁走者の盗塁に備え、一塁と二塁を結ぶ（二塁ベース近くの）ラインの延長線上に立つ。

(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合



P L

三塁走者のタッグアップを確認し、本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、一塁走者のタッグアップおよび二塁触塁、打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

2 B

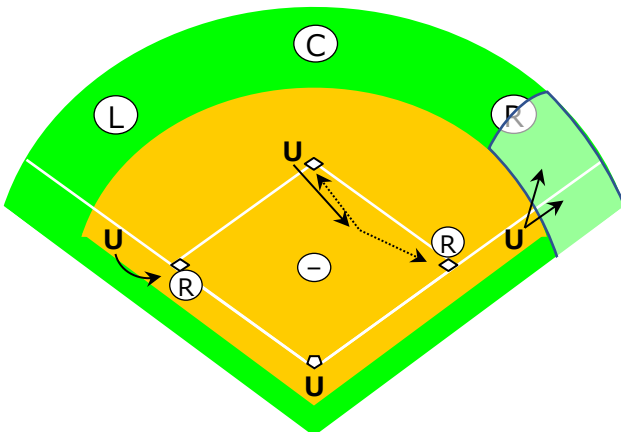
三塁方向の内野内に移動して、一塁走者の二塁触塁を確認し、二・三塁での“プレイに備える”。

3 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」三塁走者が三塁に戻った場合および一塁走者が三塁に向かった場合、二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

2 B

一塁方向の内野内に移動して、一塁走者のタッグアップおよび二塁触塁、打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

3 B

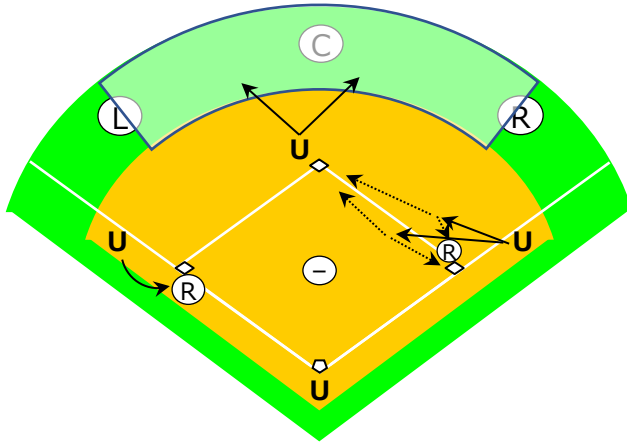
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

走者一・三塁 (c) (d)

(二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)

※二塁塁審は一塁走者の盗塁に備え、一塁と二塁を結ぶ（二塁ベース近くの）ラインの延長線上に立つ。

(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、一塁走者のタッグアップおよび二塁触塁、打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

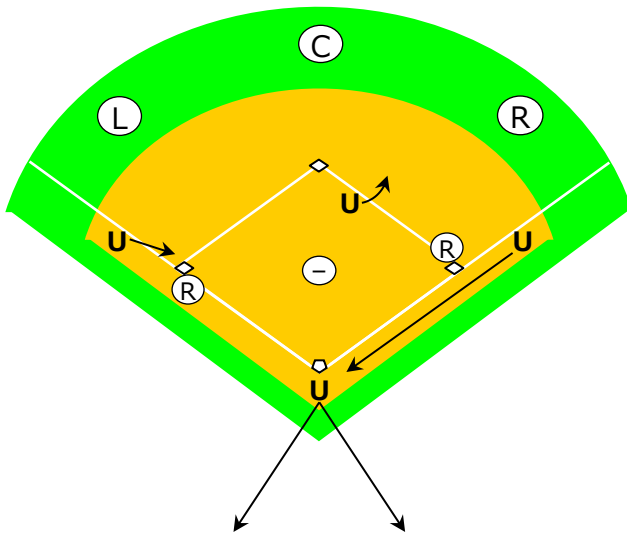
2 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

3 B

三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

(d) 本塁後方にファウルフライが飛んで球審がその打球を追った場合



P L

捕手を避け、捕手の動きを見ながら（打球を見るのではなく）、角度をとって早くバックストップにつき、打球の行方を確認・判定する。

1 B

三塁走者がタッグアップした場合、すばやく本塁に移動し、本塁での“プレイに備える”。

2 B

ダイヤモンドの外に出て、角度をとって一塁走者のタッグアップに備える。

3 B

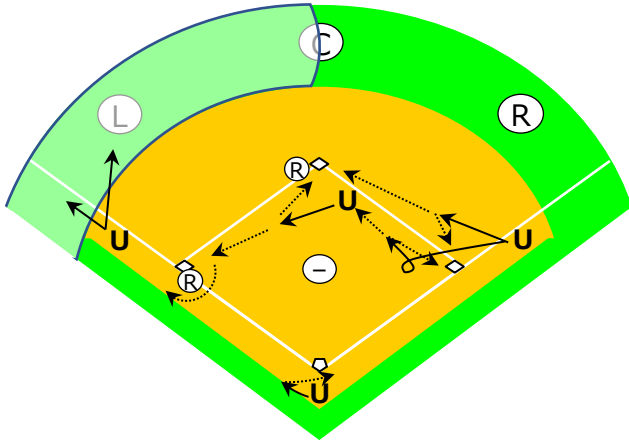
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

「付記」走者二・三塁、満塁の場合も同様に、二塁塁審はダイヤモンドの外に出て、角度をとって一・二塁にいる走者のタッグアップに備える。

走者二・三塁 (a) (b)

(二塁塁審が内側に位置した場合)

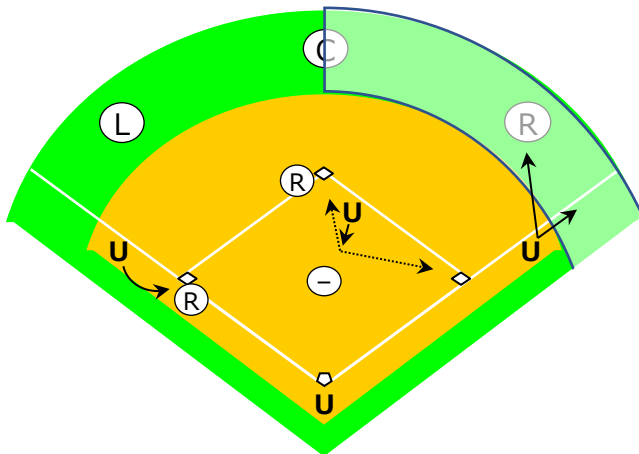
(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合



- P L
三塁走者のタッグアップを確認し、本塁での
“プレイに備える”。
- 1 B
内野内に移動または“リミング”によって、
打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での
“プレイに備える”。
- 2 B
二・三塁間に移動して、二塁走者のタッグアップ
および三塁触塁を確認し、二・三塁での
“プレイに備える”。
- 3 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、
“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」三塁走者が三塁に戻った場合および二塁走者が三塁に向かった場合、
二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合

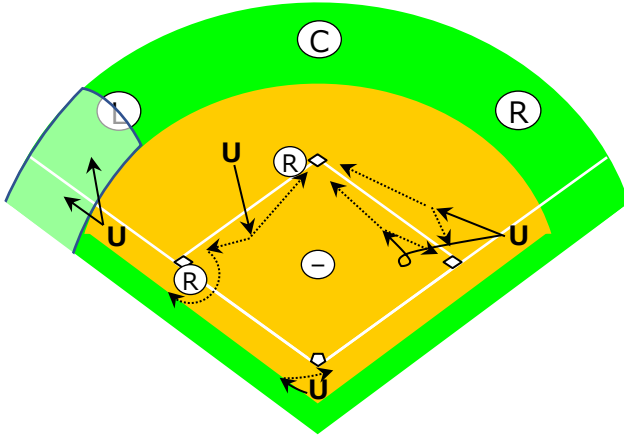


- P L
本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、
“プレイが一段落するまで”その場に留まる。
- 2 B
視野を広げながら（ステップバック）、
二塁走者のタッグアップおよび打者走者の
一塁触塁を確認し、一・二塁 での
“プレイに備える”。
- 3 B
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での
“プレイに備える”。

走者二・三塁 (a) (b)

(二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)

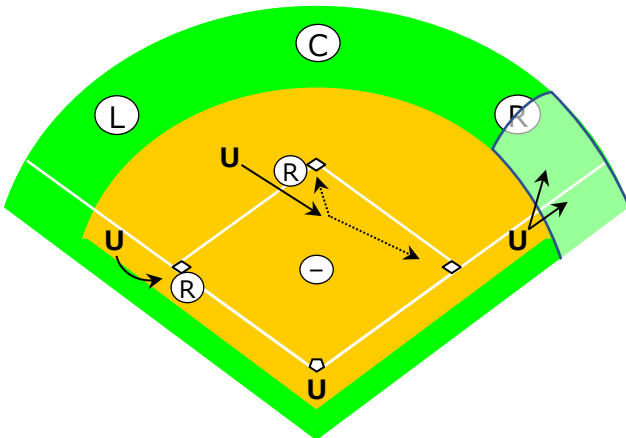
(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合



- P L
三塁走者のタッグアップを確認し、本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
内野内に移動または“リミング”によって、打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。
- 2 B
二・三塁間の内野内に移動し、二塁走者のタッグアップまたは三塁触塁を確認し、二・三塁での“プレイに備える”。
- 3 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」三塁走者が三塁に戻った場合および二塁走者が三塁に向かった場合、二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合

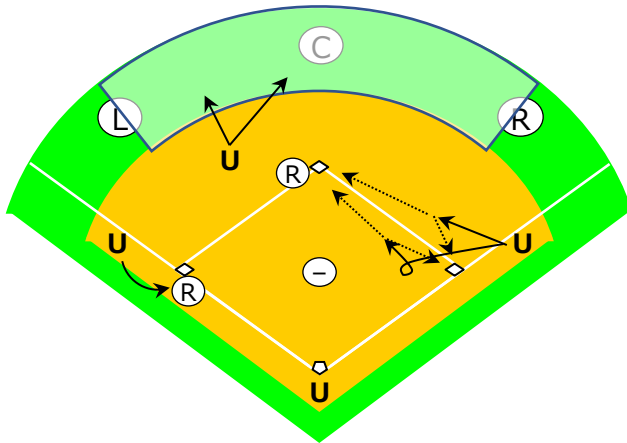


- P L
本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。
- 2 B
一・二塁間の内野内に移動して、二塁走者のタッグアップおよび打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。
- 3 B
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

走者二・三塁(c)

(二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)

(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、二塁走者のタッグアップおよび打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

2 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

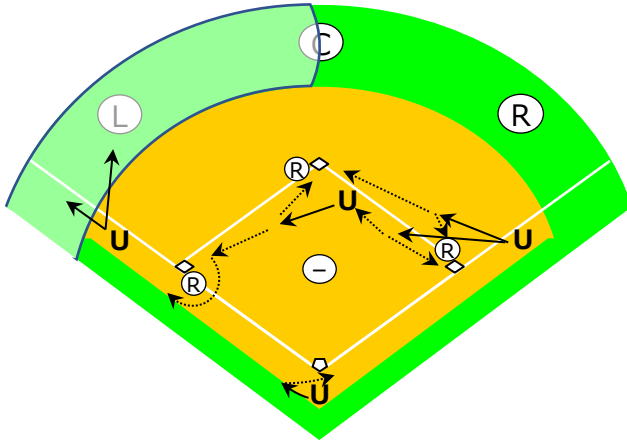
3 B

三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

走者満塁 (a) (b)

(二塁塁審が内側に位置した場合)

(a) 中堅手より左側の打球を三塁塁審が追った場合



P L

三塁走者のタッグアップを確認し、本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、一塁走者のタッグアップおよび二塁触塁、打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

2 B

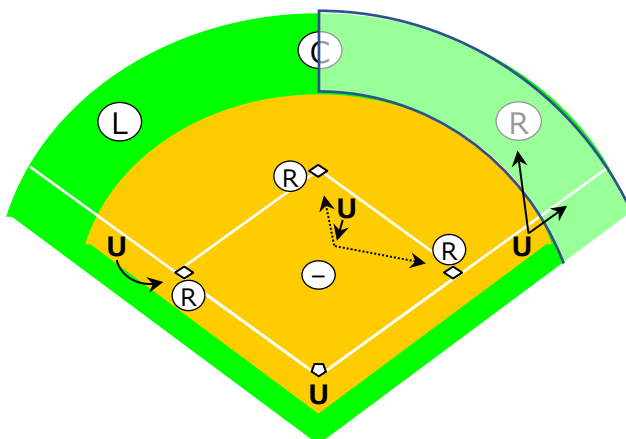
二・三塁間寄りのマウンド方向に移動し、二塁走者のタッグアップおよび三塁触塁を確認して、二・三塁での“プレイに備える”。

3 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」三塁走者が三塁に戻った場合および二塁走者が三塁に向かった場合、二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

2 B

視野を広げながら（ステップバック）一・二塁走者のタッグアップ、一塁走者の二塁触塁および打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。

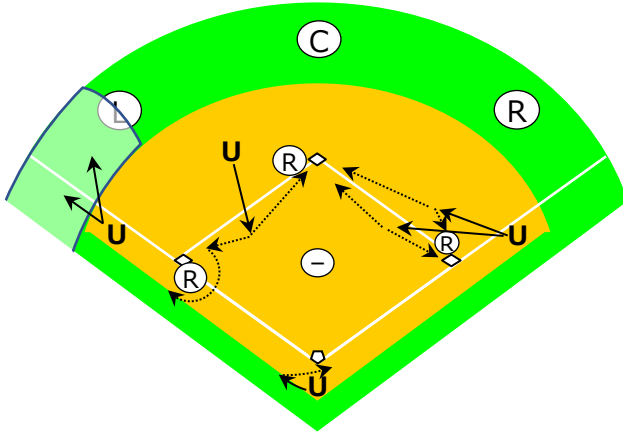
3 B

三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

走者満塁 (a) (b)

(二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)

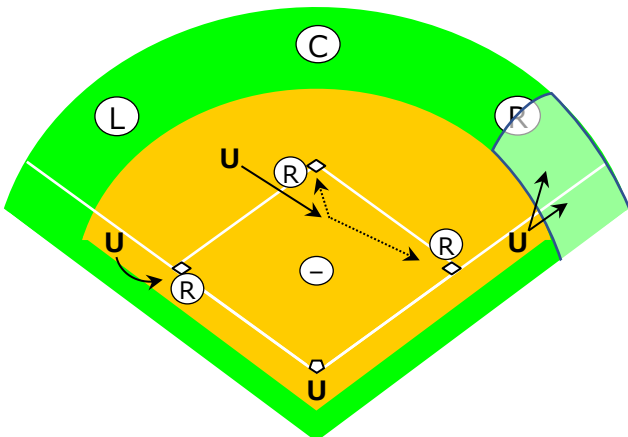
(a) 左翼手よりライン寄りの打球を三塁塁審が追った場合



- P L
三塁走者のタッグアップを確認し、本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
内野内に移動または“リミング”によって、一塁走者のタッグアップおよび二塁触塁と打者走者の一塁触塁を確認し、一・二塁での“プレイに備える”。
- 2 B
二・三塁間の内野内に移動し、二塁走者のタッグアップおよび三塁触塁を確認し、二・三塁での“プレイに備える”。
- 3 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

「付記」三塁走者が三塁に戻った場合および二塁走者が三塁に向かった場合、二塁塁審は三塁に移動し、その後の二塁でのプレイは一塁塁審が責任を持つ。

(b) 右翼手よりライン寄りの打球を一塁塁審が追った場合

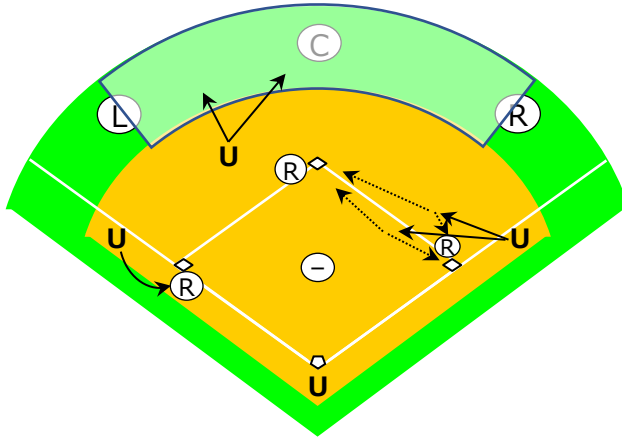


- P L
本塁での“プレイに備える”。
- 1 B
打球を追い、その行方を確認・判定後、“プレイが一段落するまで”その場に留まる。
- 2 B
一・二塁間の内野内に移動して、一・二塁走者のタッグアップ、一塁走者の二塁触塁および打者走者の一塁触塁を確認し一・二塁での“プレイに備える”。
- 3 B
三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での“プレイに備える”。

走者満塁 (c)

(二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合)

(c) 左翼手から右翼手までの打球を二塁塁審が追った場合



P L

本塁での“プレイに備える”。

1 B

内野内に移動または“リミング”によって、
一・二塁走者のタッグアップ、一塁走者の
二塁触塁および打者走者の一塁触塁を確認し、
一・二塁での“プレイに備える”。

2 B

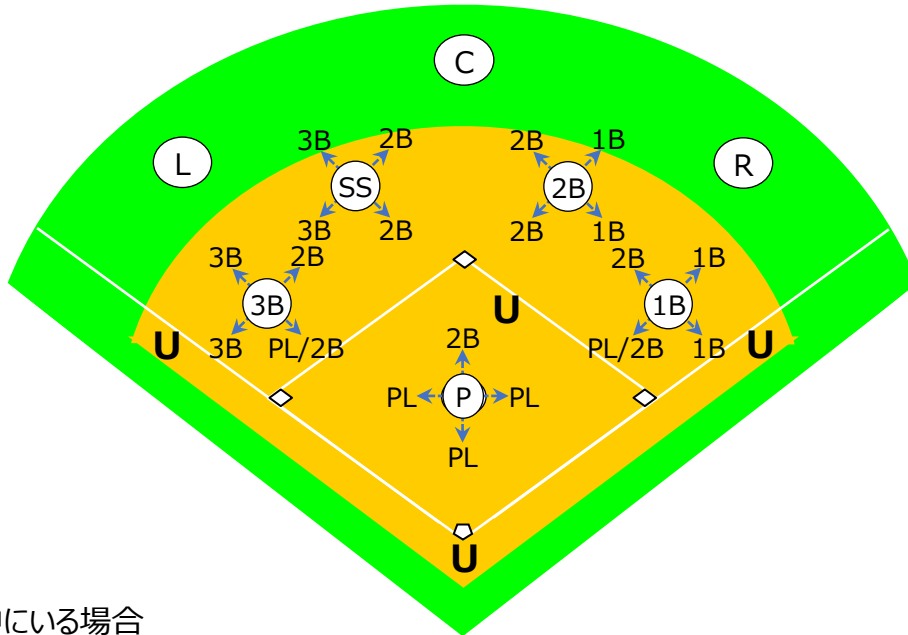
打球を追い、その行方を確認・判定後、
“プレイが一段落するまで”その場に留まる。

3 B

三塁走者のタッグアップを確認し、三塁での
“プレイに備える”。

内野へのラインドライブ

内野へのライナーに対しては、一番よく見える位置にいる塁審（グラブの腹側の塁審）が原則キャッチ／ノーキャッチを判定する。（オープン・グラブ・ポリシーの原則）



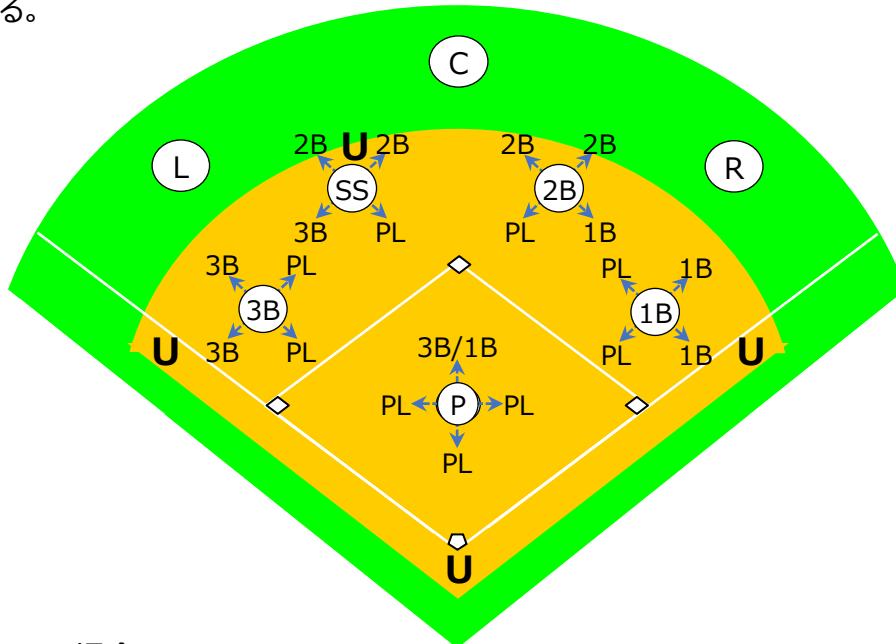
二塁塁審が中にある場合

P U：投手への打球および極端な前進守備をとった内野手への正面の打球を判定する。

1 B：一塁手の正面および一塁手からライン寄りの打球ならびに二塁手の左の打球について判定する。

2 B：一塁手、二塁手、三塁手または遊撃手の正面の打球、一塁手または二塁手の右に飛んだ打球、投手の後方に飛んだ打球ならびに三塁手または遊撃手の左に飛んだ打球について判定する。

3 B：三塁手の正面および三塁手からライン寄りの打球ならびに遊撃手の右に飛んだ打球について判定する。



二塁塁審が外にいる場合

オープン・グラブ・ポリシー（グラブの腹側の塁審が判定する）の原則に従う。

審判員間の試合前の打ち合わせ、試合中のコミュニケーション（アイコンタクトなど）が重要である。